

発行 六会地区防災リーダー連絡会
 事務局 六会市民センター 地域づくり担当
 TEL 81-6677 FAX83-2298
 編集担当自治会
 石川下町、石川南原、屋中

六会地区 防災リーダーニュース

7月17日（水）天神公園において100t 水槽の操作訓練が実施されました。



天神公園の地中には、100tの耐震性水槽（以下、100t水槽）が埋められており、給水に必要な機材は公園内の防災倉庫に格納されています。この水槽は平常時、水道の配管の一部になっている為、常に新しい水が流れています。

また、江の島など市内16か所にこのような水槽があり、災害時に応急的に給水する飲料水（一日1人3リットル目安）として、断水時に飲料水が得られない地域の住民及び帰宅困難者に対し配布が行われます。

訓練の内容は、100t水槽に見立てた水槽にホースをつなぎ、設置した配管蛇口から給水作業をするというもので、ガソリンを使う電動式と手動式がありましたが、実際に訓練を体験して災害時を考えると手動式で行うことが現実的だと感じました。井戸水を汲み上げるような感じで女性でも簡単に給水ができ、配管をつなぎ給水する作業も難しいものではありませんでした。実際にこの訓練に参加をして体験したことは、大変貴重な経験になりました。

今回の訓練は、藤沢市管工事業協同組合が行なってくださいました。こちらの組合の活動では、市内での水道関係の工事や被災地復興活動貢献もされているとのことでした。

減災活動始めませんか？

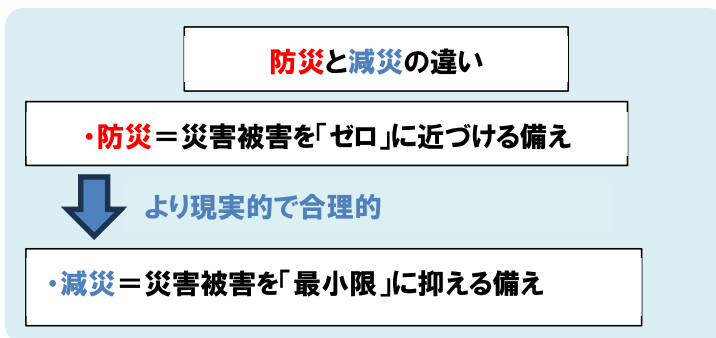
減災という言葉をご存知でしょうか。「防災」に関しては耳にしたことがある方は多いと思いますが「減災」はまだまだ浸透していません。防災との意味の違いや対策例を解説します。

○減災とは

災害による被害を最小限におさえるために備える取り組みをいいます。

自然災害の発生を防ぐことは難しいため、災害は起きるという前提のもと被害をいかに軽減させるかを目的としています。特に、自然災害の発生率が高い日本において、減災の取り組みが重要です。

○防災との違い



自治体でも災害がおこったときのために防災活動をおこなっておりますが、災害がおこると自治体も被災者のため、地域の方に満足いく支援が行き届かないことが懸念されます。

そのため、自身が被災者となったときに、被害を最小限にするために、まだ災害がおきていない“今”減災の取り組みが重要です。

○個人でできる減災活動

内閣府から「減災のてびき」という啓発ツールが提供されています。

「減災のてびき」ホームページへ →

「減災のてびき」では「今すぐできる7つの備え」をテーマに、地震、津波、台風、洪水などの災害に備える方法を紹介しています。

ここでは抜粋して「災害から命を守る（災害の怖さを知ろう（地震・室内編））」を紹介します。

災害をイメージする力を高め、リスクを理解し、自身の安全を確保するための対策を今日から始めましょう！



●大地震では、テレビが飛び、タンスがあなたの上に倒れかかってきます

阪神・淡路大震災でも、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって、尊い命を失ったり、大ケガをしたりしました。また、テレビや家具が散乱し、逃げ遅れた人たちもいます。



●窓ガラスや食器は、鋭い破片を床一面に広げ、あなたの行く手をはばみます

素足で歩ける状態ではありません。スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いておきましょう。

●「生き残ってから」のことよりも、「生き残るため／死なないための努力」を先に行いましょう

『緊急地震速報』を見聞きしても、家の中に安全な場所がなければどうしようもありません。家の中や職場など、まずは、身近な空間の安全点検と必要な対策が最優先です。

